

## ジョウビタキ

冬になると、日本に北から渡ってくる冬鳥です。スズメ位の大きさで、オスは、頭のシルバー色と胸の黒色が目立ちます。メスは、灰褐色で地味な色をしています。オス、メスともに、翼に白いまだら模様があるため、昔の人は「紋付き（もんつき）」と呼びました。

公園・農耕地・川原などに生息し、市街地でも公園や庭などで普通に見られます。昆虫や木の実を食べ、頭を下げ、尾を振る動作をよく行います。

渡ってきた直後は、自分の縄張りを宣言するために、電線やテレビアンテナに止まって「ヒッヒッ…」とさかんに鳴きます。オス、メスとも単独で生活するので、縄張りに他のジョウビタキが入ってくると争いや追いかけ合いをすることもあります。車のミラーやカーブミラーなどに写った自分の姿を攻撃するジョウビタキも観察されています。



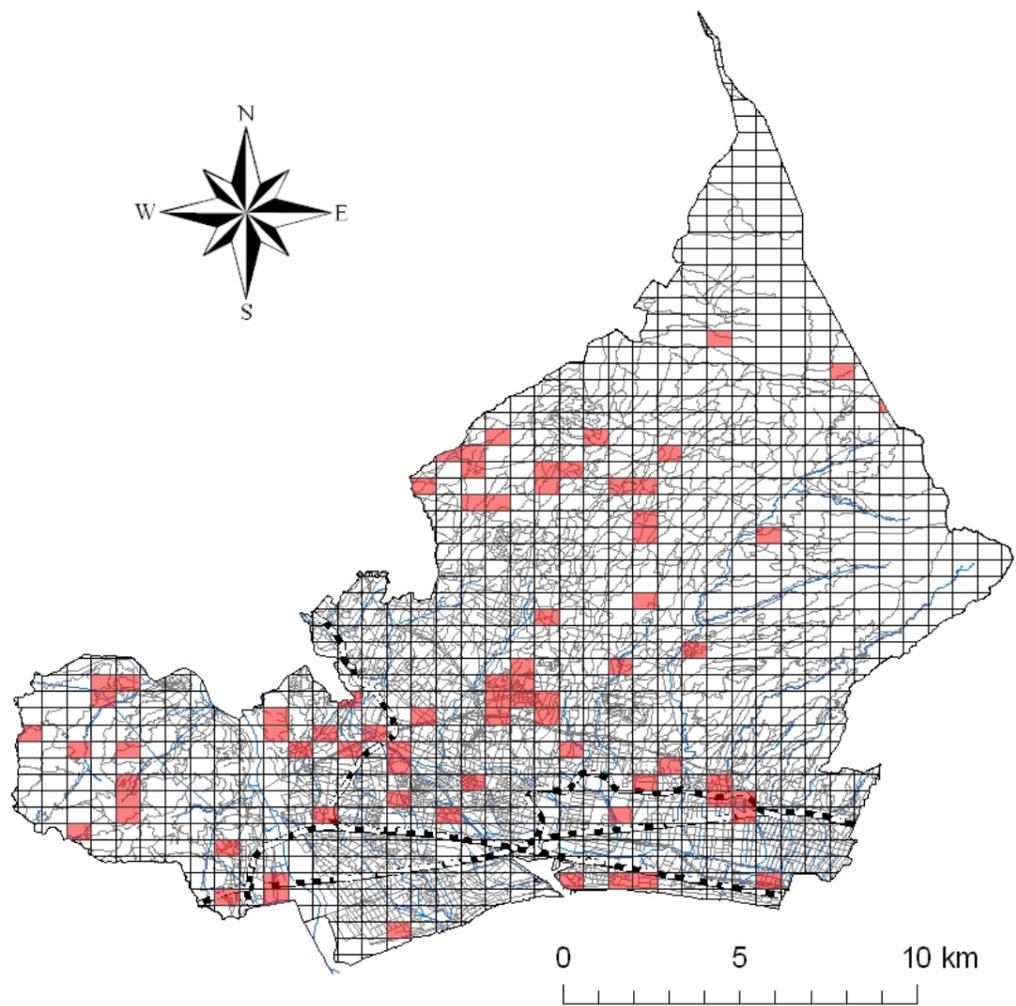
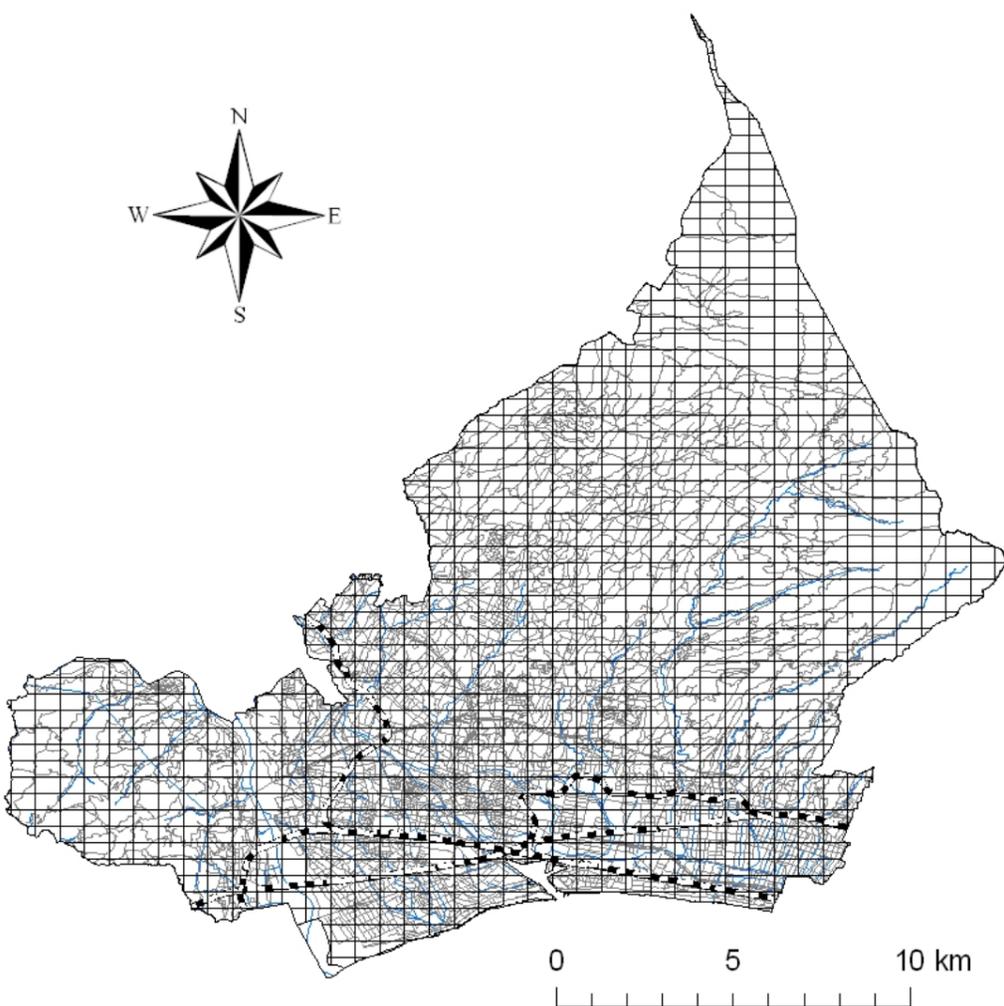
### 富士市の現状

海岸地帯から、山地まで市内全域に分布しています。10月下旬から11月上旬に渡って来ます。渡ってくる数が多い年と少ない年がありますが、これは気象条件などによって繁殖が成功したかどうかなど、繁殖地の影響と思われます。

### ジョウビタキを確認したメッシュ

夏

冬



※ 平成18年より調査しているため、日本測地系の2分の1標準地域メッシュを使用しています。